

江戸時代の関所 再現

庄内・旧清川小跡地に歴史公園構想

庄内町の清川地区振興協議会（遠藤仁会長）は「清川歴史公園基本構想」をまとめた。閉校した清川小を解体し、跡地に番所や御茶屋（本陣）を復元して江戸時代の関所の雰囲気よみがえらせる。また公民館や体育館などの複合施設を整備し、清河八郎記念館の展示機能も併設する方針。町に実現を要望していく。

番所や御茶屋整備

地区振興協町に実現要望へ

清川は最上川の水駅として代は庄内藩領に入る関所として発達した宿場で、江戸時代一カ所の一つに数えられた。



御茶屋、複合施設などの整備を目指す清川歴史公園基本構想のイメージ図

源義経や松尾芭蕉、戊辰（ぼしん）戦争などにまつわる歴史資源が多く、幕末の志士清河八郎の生誕地でもある。

2009年3月に清川小が閉校になり、跡地利用が課題となった。基本構想は清川地区を「歴史の里」と位置付け、まちづくりの拠点を整備しようというもので、12年6月から同協議会や地域団体代表らによる策定委員会が検討してきた。

構想によると、清川小校舎を解体し、跡地に番所や藩主が泊まった御茶屋を復元して、清川関所エリアとして整備する。昔の絵図によると番所は入り母屋の瓦ぶきで、現存する井戸の傍

らに建てる。御茶屋は1808（文化5）年に火事で類焼した建物の堂々とした造りを示す寸法入りの図面が残っている。資料展示のほか軽食、物販などのスペースも設ける。

関所エリアに隣接して、清河八郎記念館の展示機能と旧清川小体育館に代わる運動施設、公民館、役場出張所の複合施設を設け、一体的に運営する。現在の清河八郎記念館は収蔵庫や研究室、会議室とする。旧清川小体育館は清河八郎顕彰剣道大会の開催が80回を数える。影を残したい」と話している。

3期に分けて段階的に実現を目指す。遠藤会長は「舟運で栄えた清川の面影を残したい」と話している。